

事業番号	09 04 01	事業改善シート（令和7年度実施事業分）	☐ 当初要求	☐ 当初予算案	☐ 補正予算案	☒ 点検
事業名	園芸総合対策事業	部局	農政部	課・室	園芸畜産課	
		実施期間	H17 ～	E-mail	enchiku @ pref.nagano.lg.jp	

1 現状と課題

長野県の園芸作物（果樹、野菜、花き、きのこ）は、県農産物総生産の約77%（2,465億円/県全体3,195億円 令和4年農水省推計）を占める主要部門であり、りんご、レタス、カーネーション、えのきたけなど全国シェア上位品目をはじめ、質の高い多様な品目・品種がバランスよく生産されている。一方、生産者の減少や高齢化による生産構造の脆弱化の進行、連作障害の発生や天候不順の影響による作柄の不安定化、資材高騰等による生産コストの増加が課題となっている。

2 事業目的

県内で育成されたオリジナル品種や販売力の高い品目・品種の導入・拡大、スマート農業技術・環境にやさしい栽培体系の導入推進、規模拡大や生産効率化のための農業機械や集出荷施設等の整備により、競争力が高く、気候変動にも対応できる強靱な園芸産地を実現する。

3 事業目的を達成するための取組

①果樹の早期多収・省力栽培の導入推進及び県オリジナル果樹品種の生産振興

- ・りんご・ぶどうの多収・省力化栽培技術導入に向けた研修会の開催
- ・県オリジナル品種の生産拡大に向けた技術力向上や経営改善を支援
- ・頻発する凍霜害を防ぐための防霜ファン等の設置を支援



りんご高密度栽培セミナーの開催

②新鮮で高品質な花きを安定供給するための生産・流通技術の導入推進

- ・主要花きにおける需要期に安定的な出荷が可能な栽培技術の導入に向けた現地実証や技術習得の支援
- ・主要花きや新規品目の生産性向上に向けた技術研修会の開催



高温対策検討会の開催

③施設果菜類等の増収技術や露地野菜における環境にやさしい栽培技術の普及推進

- ・環境モニタリングや細霧冷房等のスマート農業技術の推進
- ・環境にやさしい農業技術の普及に向けた実証試験の実施、研修会の開催
- ・施設果菜類等の増収につながる雨よけ施設や機械類の導入支援
- ・緑肥作物を活用した化学肥料削減の取組に対し、緑肥種子の購入を支援
- ・国の補正予算を活用し、緑肥作物を活用した化学肥料削減の取組に対し、緑肥種子の購入費用を補助
- ・国の補正予算を活用し、農業共同利用施設の利用者負担を軽減するため、電気料金、燃油費の高騰分の一部を支援



環境モニタリング技術の実証

4 成果指標

（推移の凡例 ↗：改善 ↘：悪化 →：変化なし —：数値なし）

No.	指標名	単位	R5年度	R6年度	R7年度		R7年度 目標値	達成 状況	目標値設定理由
			実績	実績	推移	実績			
①	りんご高密度栽培面積	ha	621	635	↗	660	↗	650	達成
②	主要花き等産出額	億円	58	59	↗	61 (県推計値)	↗	60	達成
③	施設果菜類等の増収技術導入面積	ha	275	295	↗	308	↗	281	達成

5 本事業が貢献する総合5か年計画の施策分野と達成目標

No.	施策分野（施策の総合的展開名）	達成目標 （☆印が付いているものは主要目標）	単位	直近3か年の状況						目標	
				年/年度	数値	年/年度	数値	年/年度	数値	年/年度	数値
2-1①	成長産業の創出・振興	☆農業農村総生産額	億円	2023 (R5)	3,911	2024 (R7)	4,278	2025 (県推計)	4,684	2027 (R9)	3,700
2-1②	稼ぐ力とブランド力の向上	果実産出額	億円	2023 (R5)	1,000	2024 (R6)	1,036	2025 (R7)	998 (県推計)	2027 (R9)	945

6 事業コスト

（単位：千円、人）

区分	予算額					決算額	職員数
	前年度繰越	当初予算	補正予算等	合計 (予算現額)	うち一般財源		
R7年度	122,613	678,657	△ 2,451	798,819	47,589	463,550	3.1
R6年度	15,000	764,793	△ 138,637	641,156	48,020	490,507	3.1
R5年度	628,761	1,868,536	△ 1,416,224	1,081,073	52,950	1,025,209	3.1

事業番号	09 04 01	事業改善シート（令和7年度実施事業分）	☐ 当初要求	☐ 当初予算案	☐ 補正予算案	☒ 点検
事業名	園芸総合対策事業		部局	農政部	課・室	園芸畜産課

7 主な取組実績と成果

①果樹の早期多収・省力栽培の導入推進及び県オリジナル果樹品種の生産振興

・高密度植栽培における災害対策や栽培技術の研修会を実施し、技術者の指導力向上を行ったことで、栽培面積の増加につながった。

りんご高密度植栽培基礎研修会（2回、108名）、気象災害に強い果樹産地づくり研修会（1回、68名）、りんご高密度植優良事例検討会（1回、43名）

・高品質な「クイーンルージュ®」の生産・出荷に向けて、技術者の指導力向上をねらった適期作業管理の研修会を実施した。（2回、113名）

・補助事業を活用した防霜ファンの設置支援により、果樹産地の生産力向上を図った。（防霜ファン設置面積3.2ha）

②新鮮で高品質な花きを安定供給するための生産・流通技術の導入推進

・カーネーションにおけるLED電照の効果検証やトルコギキョウにおける土壌病害対策について地域性の高い品目の生産面での課題解決に向けた現地実証ほを設置し（14か所）、検討会を開催した（1回）。

・アルストロメリアの特性調査を行い、優良品種を選定した（1か所）。

③施設果菜類等の増収技術や露地野菜における環境にやさしい栽培技術の普及推進

・補助事業を活用し、JAあづみ夏秋イチゴ部会において環境モニタリング装置を用いたデータ活用勉強会を開催したほか、細霧冷房装置の効果検証等を行った。（事業実施面積1.8ha）

・技術者を対象とした、野菜における環境にやさしい農業推進研修会を実施し、減化学肥料・化学農薬の取組事例を共有した。

・施設果菜類等の増収につながる雨よけ施設やスマート農業機器の導入を支援した（4件）。

・緑肥作物を活用した化学肥料削減の取組の一部、農業共同利用施設の利用者負担を軽減する取組については、翌年度に繰越し、実施予定。



りんご高密度植栽培研修会



カーネーションにおけるLED電照試験



環境モニタリング装置の組み立て研修会

8 成果指標の達成状況に関する要因分析

指標①	りんご高密度植栽培面積	R6年度推移	↑	R7年度推移	↑	達成状況	達成
技術者向けの栽培研修会により、変化する気象条件の中での生産者の栽培技術力を高めるとともに、国庫補助事業等により新植・改植が進んだことで、りんご高密度植栽培面積が増加し目標値を達成した。							
指標②	主要花き等産出額	R6年度推移	↑	R7年度推移	↑	達成状況	達成
高単価の需要期に出荷ができ、アルストロメリアの生産量が伸びたことで産出額は増加した。							
指標③	施設果菜類等の増収技術導入面積	R6年度推移	↑	R7年度推移	↑	達成状況	達成
トマトの接ぎ木苗やスマート農業機器の活用を促す研修会の実施や、キュウリ・トマト・アスパラガスに関する技術研修会の実施により、増収技術のメリット・導入方法や優良事例が広く周知されたことで、増収技術の導入面積が拡大した。							

9 今後の事業の方向性

(1) 上記7、8及び県民の意見等を踏まえた課題

・果樹では、新たな栽培方法の導入（りんご高密度植栽培、なし樹体ジョイント仕立て栽培等）により、生産量の拡大も期待できるようになったが、近年の温暖化の影響から、着色不良や日焼けなどによる品質低下が問題となっており、生産量の伸びは想定を下回っている。

・花きにおいては、高温の影響による品質低下、燃油高騰による経営の圧迫が続いているため、高温対策技術、省エネ・低コストの生産技術の導入拡大が必要である。

・野菜では、夏期の猛暑・局地的豪雨といった気象の極端化への対応や、農業用プラスチック等の価格高騰を踏まえた代替技術・資材の活用など、生産安定や持続性の高い栽培体系への転換が求められている。

・各品目とも、生産者の高齢化や担い手の減少により、今後、将来的な農業経営体数・作付面積が減少することが見込まれる。産地を維持するためには、担い手の確保や経営基盤の強化、生産性・収益性の向上を支援する取組が必要である。

(2) 事業改善の方策

・果樹では、着色不良や日焼け等の課題に対応するため、県単事業による多目的ネットやかん水設備の導入支援を行う。

・花きでは、夏秋期の品質向上のための高温対策技術、省エネ・低コストの生産技術の検討と実証及び啓発を行い、生産者の経営向上と産出額の増加を図る。

・野菜では、引き続きスマート農業技術や雨よけ施設等による施設果菜類の増収技術の普及を図るとともに、施設栽培における高温対策技術の検討や、露地野菜における緑肥作物や生分解性マルチ等の利用など環境にやさしい農業技術の導入を推進する。

・いずれの品目においても産地・担い手確保のための施設・機械導入支援や、作業性・収益性向上に寄与する栽培技術の普及推進を図る。

事業名	園芸総合対策事業	部局	農政部	課・室	園芸畜産課
-----	----------	----	-----	-----	-------

細事業No.	細事業名		R5年度 決算額	R6年度 決算額	R7年度 決算額
1	信州農業生産力強化対策事業		47,240 千円	48,828 千円	48,123 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和7年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	信州農業生産力強化対策事業	補助金	長野県農業の多様な生産力の向上を図るため、新たな技術の現地への普及やマーケットニーズに対応した産地の育成に必要な機械・施設等の導入等を支援 実施団体数：30団体		

細事業No.	細事業名		R5年度 決算額	R6年度 決算額	R7年度 決算額
2	皆で取り組む園芸振興事業		2,950 千円	2,856 千円	2,856 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和7年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	果樹の多収・省力栽培の導入推進及び県オリジナル品種の生産振興	負担金	早期多収・省力栽培の導入推進及び県オリジナル品種の検討会の開催（果樹） 検討会の開催数：11回		
2	新鮮で高品質な花きを安定供給するための生産・流通技術の導入	負担金	需要期出荷量・品質等の向上に向けた実証ほ場の設置（花き） 実証ほ場の設置数：14か所		
3	野菜の安定生産技術・増収技術及び環境にやさしい農業の推進	負担金	野菜の収量向上技術や環境にやさしい農業の推進に向けた取組（野菜） 取組課題数：17課題		

細事業No.	細事業名		R5年度 決算額	R6年度 決算額	R7年度 決算額
3	園芸産地強化対策整備事業		946,877 千円	423,125 千円	371,573 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和7年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	園芸作物産地基幹施設等の整備	補助金	生産・流通コストの低減や高品質で付加価値の高い生産・供給体制の確立等を図るため、野菜・果樹・花き集出荷施設等の整備を支援 実施事業数：7事業		

細事業No.	細事業名		R5年度 決算額	R6年度 決算額	R7年度 決算額
4	果菜類増収技術普及推進事業		999 千円	7,355 千円	1,466 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和7年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	施設果菜類の増収技術に係る取組	補助金 直接	環境モニタリング装置を活用したデータ活用農業の推進、夏期高温対策としての細霧冷房実証ほ場の設置、スマート農業研修会の開催 環境モニタリング取組数：2グループ		

細事業 No.	細事業名		R5年度 決算額	R6年度 決算額	R7年度 決算額
5	グリーン園芸転換推進事業		3,647 千円	3,033 千円	0 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和7年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	グリーン栽培の現地検証	補助金	環境にやさしい持続可能な栽培技術（グリーン栽培）の推進のため、減肥・減農薬に資する技術の現地実証を支援		
			実証か所数：0か所		

細事業 No.	細事業名		R5年度 決算額	R6年度 決算額	R7年度 決算額
6	化学肥料削減・緑肥転換緊急支援事業		23,496 千円	5,310 千円	39,532 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和7年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	化学肥料削減・緑肥転換緊急支援	補助金	緑肥作物を活用した化学肥料の削減の取組を行う農家に対し、協議会等が緑肥種子を配布するための購入費用を補助		
			緑肥種子支援面積：527ha		

細事業 No.	細事業名		R5年度 決算額	R6年度 決算額	R7年度 決算額
7	農業共同利用施設光熱価格高騰緊急支援事業		－ 千円	－ 千円	0 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和7年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	農業共同利用施設光熱価格高騰緊急支援	補助金	動力光熱費高騰の影響を受ける農業共同利用施設の利用者の負担を軽減するため、電気料金、燃油費の高騰分の一部を支援		
			助成件数：事業実施中（R9.3月確定見込み）		